

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	歴史研究所教育事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	歴史研究所		包含する細々目	1	10	5	8	11	2	2,035
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり											
施策	29 ふるさと意識の醸成											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	14	年度～	年度	関連計画 事業答申(2002.4.2) 事業中期の計画(2002.8.30) 飯田市歴史研究所条例 / 飯田市歴史研究所管理運営規則 / 任期付研究員採用条例						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	市民 中・高校生	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度 以前に終了 は終了年 とする	
			107844	107000			
	中・高校生生徒数		現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
			7880	7500			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	・歴史・文化についての関心・理解を深める。	受講した市民の数 18年計(アカデミア167人、ゼミのべ878人)	18目標	1000	最終目標	1000	
			18実績	1045	19目標	1000	↑
			23目標	1000	23実績		最終目標 達成年度
		出前講座等に参加した中・高校生の数	18目標		最終目標		
18実績				19目標	100	↑	
23目標				23実績		最終目標 達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	<ul style="list-style-type: none"> 大学等の高等教育機関が少ない本市において、最新の研究成果、体系的な知識や理論、方法論を提供する事で市民の歴史・文化についての関心・理解を深める。 市民を対象にした外部講師(大学教授等)による大学教育レベルの学術講座の定期的な開催や、調査研究活動を基礎にした研究所スタッフの指導により、市民が主体的に自らの歴史を学んでいく環境を提供する。 市民が主体的に歴史を学んでいくゼミナール等を中心に、地域の歴史・文化を発見し、豊かな人材育成を図る。 若い世代がこの地域の歴史を学び、かつより広い視野を持つ機会を提供し、この地域の未来を担い地域に住み続ける若者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 飯田アカデミアの開催 飯田歴研ゼミナール開催 	<ul style="list-style-type: none"> アカデミアの開催回数 ゼミナールの開講回数 	<ul style="list-style-type: none"> 7回 61回
		<ul style="list-style-type: none"> 飯田アカデミアの開催 飯田歴研ゼミナール開催 歴研地域史講座開催 出前講座(学校・団体等)の開催 飯田歴研ジュニアゼミナールの企画検討 	<ul style="list-style-type: none"> アカデミアの開催回数 ゼミナールの開講回数 歴研地域史講座回数 出前講座回数 	<ul style="list-style-type: none"> 8回 60回 5回 10回

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他	80	70
一般財源	1,965	1,965	
事業費計(A)	2,045	2,035	
人件費	正規職員所要時間	18年度 2,300	19年度 2,300
	臨時職員等所要時間	1,000	1,000
	人件費計(B)	9,300	9,300
	トータルコストA+B	11,345	11,335

特定財源内訳や補足事項	アカデミア等資料代
-------------	-----------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民が地域を知る。 地域を誇りに思う。	飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)	現状値	18016	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	19800
	ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合		現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

<p>この事業を開始したきっかけ</p> <p>市制60周年の平成9年度から市誌編さん事業を開始し、市制70周年を迎える平成19年度に刊行が終了するよう進めていたが、単に冊子の刊行を目的とせず、恒久的な文化事業の一環として事業の見直しを行い、平成15年度から新たに事業を再スタートさせた。</p> <p>研究所の調査・研究成果が、市民の主体的な学習活動に活かせるよう教育事業を展開する。</p>	<p>事業を取り巻く状況の変化</p> <p>研究所主催の各種教育事業が、社団法人長野県建築士会(飯伊支部)の継続能力開発(CPD)制度の認定プログラムにも採用され、地元建築士との連携も図られるようになった。</p>	<p>事業に対する市民や議会の意見</p> <p>アカデミア参加者のアンケート調査では、具体的な講座希望内容や事業の意義について評価する意見が多い。なかでも大学がない本市において、「飯田でこのような水準の高い講義を受けることができ、うれしい」、「もう1単位くらいあった方がよかった。」などの声がある。</p>
--	---	---

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	<p>(評価) 結びつく (その理由)</p> <p>地域の調査研究活動を基にした各種講座や市民が主体的に学ぶセミナーの開催等によって、市民が地域を知る機会となる。</p>	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	<p>(評価) 余地がある (その理由)</p> <p>講座等の魅力を高めるよう、調査研究の成果活用など工夫を重ねる。また、中・高校生の関心を高め講座等への参加を増やす。</p>
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p> <p>地域住民による地域をより深く知るための学習活動である。</p>		廃止・休止した場合の影響はありますか？	<p>(評価) 影響あり (その理由)</p> <p>地域固有の歴史を学び、郷土への愛着を深める機会が失われる。地域の担い手も育ちにくくなる。</p>
	意図の見直しの必要性はありますか？	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p> <p>地域史の調査研究に特化した独自の活動により、地域の歴史や特性、課題に対する理解を深めることができる。</p>		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	<p>(評価) 関連事業あり (類似事業名、理由)</p> <p>美術博物館・図書館との協働、生涯学習・スポーツ課との連携により、相互に補うことができる。</p>
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	<p>(評価) 必要ある (その理由)</p> <p>地域の歴史や特性についての理解を深めることは、地域への愛着を深めることにつながり、文化経済自立都市実現を担う人材を育てることとなる。結果として将来の地域振興につながる長期的な展望が必要な事業であり、市が関与する必要がある。</p>		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	<p>(評価) 不可能 (その理由)</p> <p>優れた講師陣の確保や、研究員の地道な調査研究活動の成果に拠る講座開催など、必要最低限の経費に抑えている。</p>
			公平性評価	<p>(評価) 妥当である (受益者とその理由)</p> <p>参加者。資料代の実費相当を徴収しており負担は妥当である。</p>	

【Plan】改革改善

<p>今後の事業の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 終了</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止</p> <p><input type="checkbox"/> 休止</p> <p><input type="checkbox"/> 目的見直し</p> <p><input type="checkbox"/> 別事業に統合</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善</p> <p><input type="checkbox"/> 現状維持</p>	<p>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</p> <p>第1期計画期間の実績を点検総括し、外部評価やパブリックコメントを経て、改善案を反映した次期5ヶ年の計画を策定する。また、魅力ある出前講座のメニューの開発やジュニアセミナーの検討を3月までに行い、中・高校生の学習参加を促す取り組みを行う。</p>
<p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p>	<p>市民へのよりきめ細かな広報活動が必要であり、地域の歴史や課題を掘り起こし関連づけを深めながら講座等を開催していく。また、講座等の質を高め住民により良いサービスを提供するために、美術博物館・図書館、さらに生涯学習・スポーツ課と連携を深めていく必要がある。</p>

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	